

## ★予防接種のポイント★

- ・ 予防接種（ワクチン）は、施設内における感染症の発生や伝播を防止する強力な手段です。
- ・ スタッフ・入居者ともに、必要な予防接種が受けられるようにしましょう。
- ・ とくにインフルエンザワクチンは、全員接種を目標に取り組みましょう。

とくにインフルエンザ予防接種は、施設内の接種者の割合が増えるほど効果が大きくなりますので、スタッフ・入居者ともに全員が受けられるようにしましょう。



## ■ 施設全体の管理 ■

- ◆ スタッフ・入居者に対して、予防接種の意義・効果・副作用等、十分な説明と同意のうえで接種機会を提供しましょう。 **目標**

※いずれの予防接種も、「接種不相当者」に該当する場合は接種できません。接種方法や抗体レベルなどの詳細は日本環境感染学会の推奨に従いましょう（日本環境感染学会のホームページから「医療関係者のためのワクチンガイドライン(第3版)」のダウンロードが可能です）。

- ◆ スタッフの予防接種は、労働者としての安全衛生上の観点からも必要なものです。可能な限り、費用の面においても施設で援助できることが望ましいです。 **目標**

## ■ スタッフの予防接種 ■

表1. 高齢者施設スタッフに推奨される予防接種と接種時期および推奨度

予防接種	接種時期	推奨度
インフルエンザワクチン	毎年（秋～冬）	禁忌がなければ全員接種
B型肝炎ワクチン	入職時（免疫がなければ接種）	禁忌がなければ全員接種
麻疹（はしか）ワクチン	入職時（免疫がなければ接種）	可能であれば
風疹ワクチン	入職時（免疫がなければ接種）	可能であれば
水痘ワクチン	入職時（免疫がなければ接種）	可能であれば
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチン	入職時（免疫がなければ接種）	可能であれば

### <インフルエンザワクチン>

- ◆高齢者施設での流行を防止するため、禁忌がない限り全員の接種が必要です。 **守る!**
- ◆接種忘れ防止のため、接種者リストなどを作成して管理すると便利です。 **目標**

### <B型肝炎ワクチン>

- ◆B型肝炎ウイルスは血液を介して感染をする病原体としては最も感染力が強く、感染者に使用した針・鋭利物による針刺し・切創、血液・体液の粘膜への曝露、小さな外傷や皮膚炎などのある皮膚への曝露、噛みつきなどでも感染が成立する可能性があります。
- ◆B型肝炎ウイルスに感染すると、重症化・死亡のリスクがあるほか、長期的には肝臓がん発生の原因にもなるため、予防接種によって感染を防止する必要があります。
- ◆上記の理由から、施設スタッフは禁忌がない限り全員の接種が必要です。 **守る!**

※すでに免疫がある状態（抗体獲得）であれば、接種は不要です。

※ワクチンの接種歴がある場合、免疫を持っている可能性が高いです。免疫の状態（抗体価）が不明であれば、検査が必要です。医師や医療施設へ相談しましょう。

### <麻疹（はしか）ワクチン・風疹ワクチン・水痘ワクチン・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチン>

- ◆1歳以上で2回の予防接種記録（母子手帳の記録）がない場合や、適切な抗体価を保有していない場合には、予防接種を受けることが望ましい、とされています。
- ◆高齢者施設で流行する頻度は少ないと考えられますが、接種の必要性について、医師または医療施設に相談のうえ、あらかじめ検討しておくことを推奨します。

### <新型コロナウイルス感染症のワクチン>

- ◆現時点（2020年8月）では利用できず、推奨の判断はできませんが、接種が必要になる可能性が高いでしょう。

## ■ 入居者の予防接種 ■

表2. 高齢者施設入居者に推奨される予防接種と接種時期および推奨度

予防接種	接種時期	推奨度
インフルエンザワクチン	毎年（秋～冬）	禁忌がなければ全員接種
肺炎球菌ワクチン	入所時 （接種歴がなければ接種） （前回の接種から5年以上経っていれば任意で接種可能）	禁忌がなければ全員接種
帯状疱疹ワクチン （組換えワクチン）	入所時 （接種歴がなければ接種）	費用が高いため、本人や家族が許容するなら接種推奨

### <インフルエンザワクチン>

- ◆高齢者施設での流行を防止するため、禁忌がない限り全員の接種が必要です。**守る!**  
※インフルエンザワクチンは、高齢者のインフルエンザ罹患時の重症化予防効果もあります。
- ◆インフルエンザ流行シーズン中に新規入居してくる方で、接種をしていないままになっている場合があります。接種忘れ防止のため、接種者リストなどを作成して管理すると便利です。**目標**

### <肺炎球菌ワクチン>

- ◆肺炎球菌ワクチンは、特定のタイプの肺炎球菌による重症の肺炎を予防する効果があります。23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)を1～2回(5年以上の間隔をあけて)接種します。過去に接種していても、任意で5年以上の間隔をあけて追加接種することが可能です。

65歳、70歳、75歳（以降100歳まで5歳刻みの各年齢）になる人は、過去に肺炎球菌ワクチン(PPSV23)の接種歴がなければ、1回だけ公的費用助成が受けることができます！



### <带状疱疹ワクチン（組み換えワクチン）>

- ◆高齢者における带状疱疹の発症を予防するワクチンです。効果は高いものの、1回20,000万円の費用が欠点です。（合計2回接種が必要です。）
- ◆接種歴がなければ、入居者・家族へ情報提供することを推奨します。
- ◆水痘ワクチン（生ワクチン）でも同じ効果が得られますが、生ワクチンでは接種できない対象が多く存在することが考えられるため、高齢者施設では推奨されません。

### <新型コロナウイルス感染症のワクチン>

- ◆現時点(2020年9月)では利用できず、推奨の判断はできませんが、今後接種が必要になる可能性があります。

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）